

## 「浙江大学スプリングスクール派遣参加報告書」

京都大学教育学部 3 年 (矢澤西夏)

この度浙江大学スプリングスクールにおいて、文化研修等を含めたフィールドトリップと語学研修に参加し、非常に有意義な2週間を過ごした。

このようなスプリングスクールに参加することも中国を訪問することも始めてだったため、小さなことでも毎日新しい発見の連続であったが、その中でも、2週間を中国で過ごし、浙江大学で中国語を勉強することで得られた成果は大きく分けて2点ある。1点目は、実際に中国で生活することで現在の中国を感じ、中国社会・文化に対する理解が深まったことである。2点目は、多様な人と出会い国際交流ができたことである。

まず、中国の理解への深まりについては、日々の生活やフィールドトリップ等を通じて中国国内を自分の目で見て歩き体験したことに因る。私は本プログラムで初めて中国語に触れたため日常会話さえもままならず、買い物・食事の注文や公共交通機関の利用に最初は困難を覚えた。(そもそも英語がほとんど通じない点に少々驚いた。)しかし、そのような中でも、スーパーや食事処から中国(浙江省)の食生活を伺うことができたし、日本とは大きく異なるバイク・バス・高速鉄道事情を知ることができた。また、日々の生活で中国のあらゆる商品やサービス(輸入品や外資系チェーン店等を除く)の価格から日本の物価がいかに高いかを痛感した。海外研修では現地の社会や文化を異文化体験という形で経験することは多々あるが、今回私が単なる異文化ではなく、日本に寄せて考えさせられた点は、中国のキャッシュレス社会である。中国ではすべての商店で Alipay, WeChat Pay 等による電子決済が可能で、むしろ現金ではサービス料として追加料金を支払ったり、小銭をあまり用意していない店もあるらしい。中国の銀行口座を持っておらず短期滞在であったため私は電子決済サービスの恩恵を受けることができなかったが、スマホ一台あればどこでも瞬時に支払いができる社会は非常に魅力的であると思う。日本では近年になって電子決済サービスが徐々に普及しつつあるが現金での取引のほうが根強いのが実情である。電子決済サービスが当たり前である中国社会を目の当たりにして、日本の決済サービスに興味を持つとともに、今後の動向を探っていきたいと思った。その他にも、中国の文化・社会については、浙江大学のボランティアさんからお話を伺う中で得られた情報もかなり大きい。日々生活する中で感じた中国社会への疑問について、真摯に答えてくださり、私たちの理解を深めてくださったボランティアさん達に感謝である。

2点目の国際交流に関しては、上記のボランティアさん達との交流はもちろんだが、中国語クラスで出会った国際色豊かなクラスメイトとの交流が印象深い。2週間という短い期間の中で関わった人数は限られるが、年齢も国籍も全く異なる人たちと交流する中で、新しい発見も多く自分がいかに狭い世界で生きてきたかを感じた。私は英語が得意という訳ではないため、英語でのコミュニケーションにはエネルギーを要したが、異なるバックグラウンドの人との交流は非常に面白かった。具体的な交流内容は割愛するが、彼ら自身のことや彼らの国のことを心から知りたいと今でも思っている。最後にはとても感動的な手紙をもらい、彼らとの繋がりをこれからも大切に持ち続けたいと思った。

以上のように、中国で実際生活することで、中国の理解が深まるとともに意識もさらに高まった。それに付随して現在と将来の日本社会についても考えさせられた。また、今回のスプリングスクールに参加したことで多様な人と出会い、新しい発見や感動を味わった。中国についての興味がさらに深まったのはもちろんのこと、クラスメイトの出身国についても興味を持てた。今回のようなプログラムが今後もあれば参加したいし、自ら積極的に国際交流をしていきたいと思う。